

東京2020オリンピックを人々はどう受け止めたか

開催賛否に関するパネル調査

三浦 麻子（大阪大学大学院人間科学研究科/CiDER兼任・社会心理学）



本報告は、CiDER人間科学ユニットのプロジェクト研究の一環として実施した、小林哲郎氏（香港城市大学）との共同研究の成果にもとづくものです。

要約

- 感染禍での開催となった東京五輪に対する賛否について、世論の動向というだけでなく、大会前、大会中、大会後に、個人が東京五輪とその関連事象をどう捉えるのか、その個人内変化に注目して検討した。
- 2021年5月25日から10月22日までの期間に11回のパネル調査（同じ対象者に基本的に同じ質問を継続的に問う形式の調査）を実施した。
- 東京五輪開催に対する賛否は、開催前はほとんど変化なく反対が多く、開催中に徐々に軟化し、閉会2ヶ月半後には賛否ほぼ同数に至った。
- 五輪開催への態度軟化と関連するのは、日本にとっての五輪の「大義」よりも、五輪としての「大義」を感じたことだった。

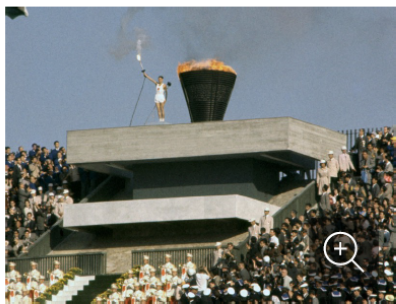
東京五輪1964パネル調査

#五輪をどうする

東京五輪 57年前と対照的な世論 賛否割れ一体感生まれず

イチャオン 松倉佑輔 社会 | スポーツ | 速報

毎日新聞 | 2021/7/2 07:00 (最終更新 7/2 17:38) 有料記事 3644文字



東京オリンピック開会式（1964年）で聖火台に点火し、トーチを掲げる聖火リレー最終走者

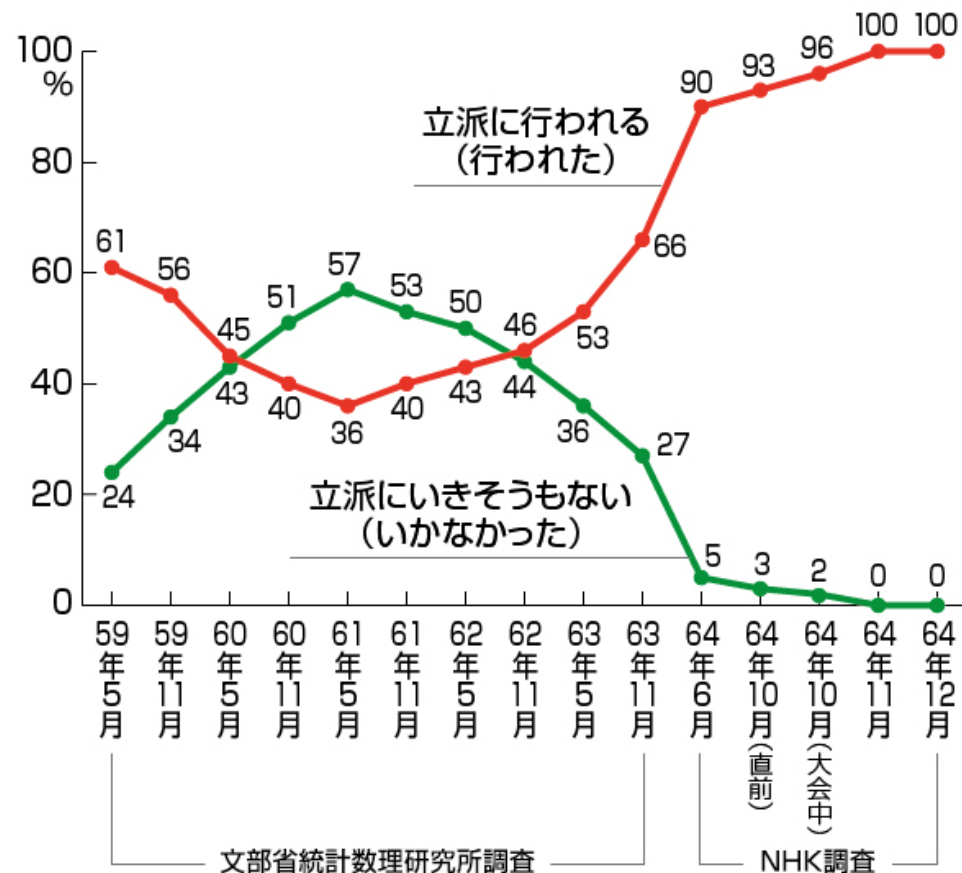
東京オリンピック・パラリンピックの開幕が迫ってきたが、世間に期待が高まっている気配がない。新型コロナウイルス感染拡大への脅威が消えず、不安が根強いのだろう。しかし実は1964年の東京大会も、当初は反対論や無関心に包まれていたという。今回も五輪が始まれば盛り上がりを見せるのだろうか。前回大会の際に世論を分析した社会学者と考える。【聞き手・松倉佑輔/デジタル報道センター】

<https://mainichi.jp/articles/20210701/k00/00m/040/174000c>

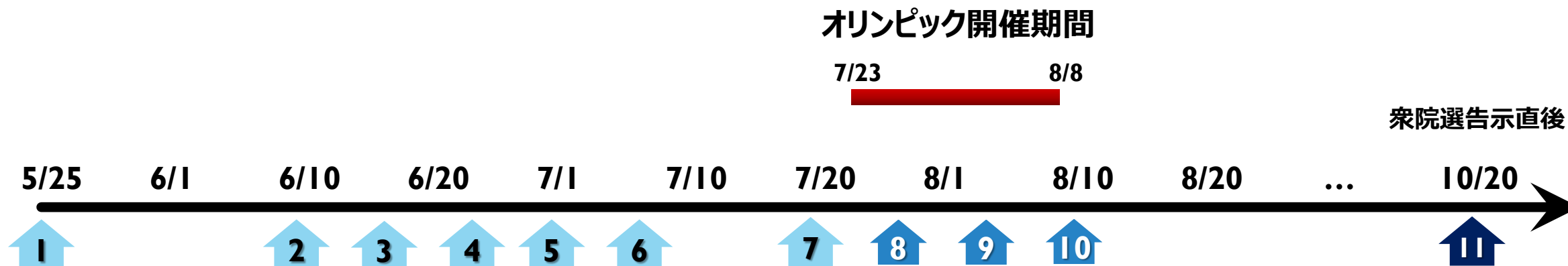
「日本にとっての」東京五輪1964の大義

敗戦で凋落していた日本のイメージ回復：（今回とは異なる意味の）国威高揚・経済効果
テレビを通じて国民全員が同じ情報を共有できる初の「ナショナルイベント」

オリンピックは立派に行われるだろう
（行われている、行われた）と思いますか
〔東京〕

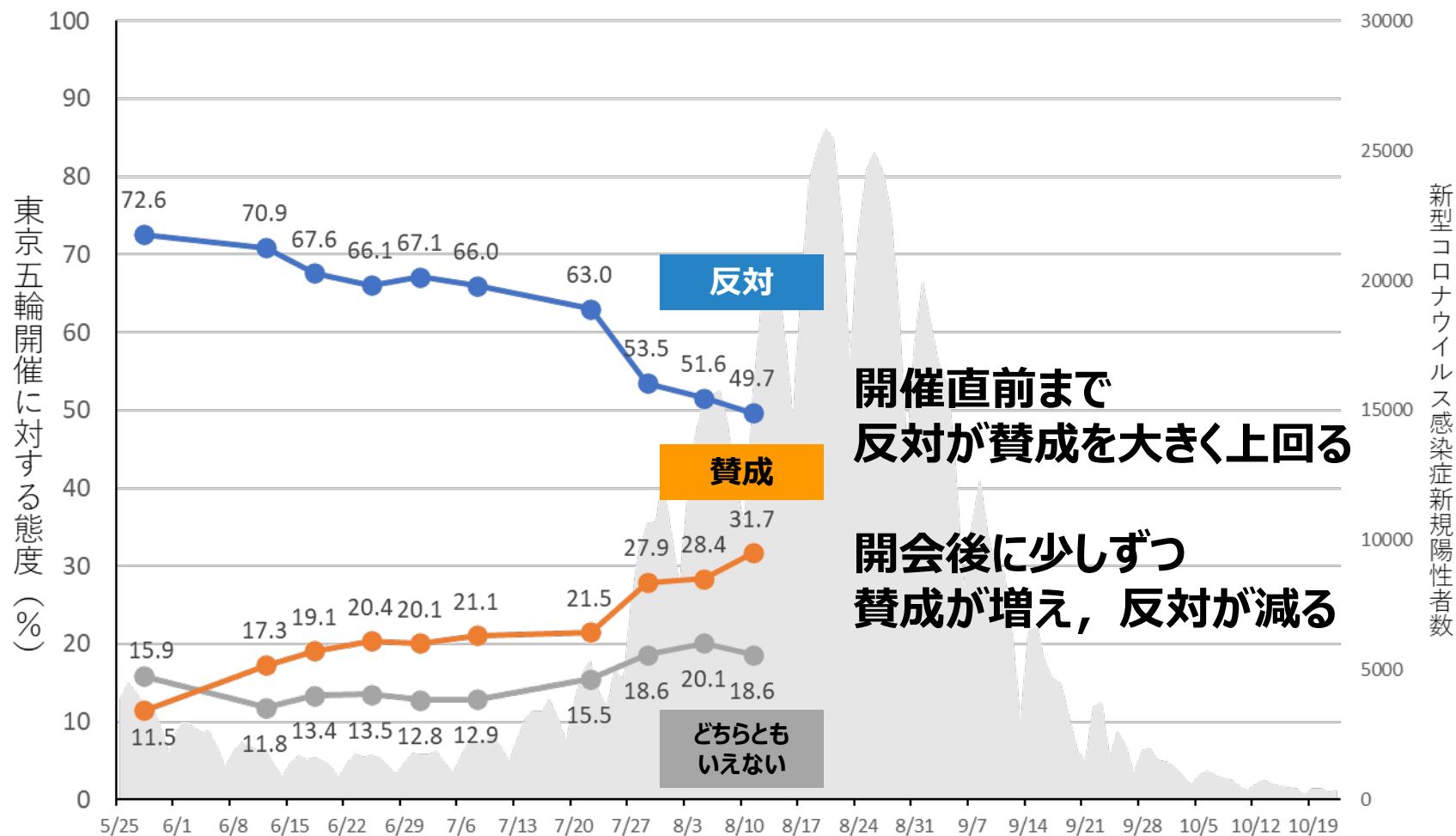


東京五輪2020パネル調査

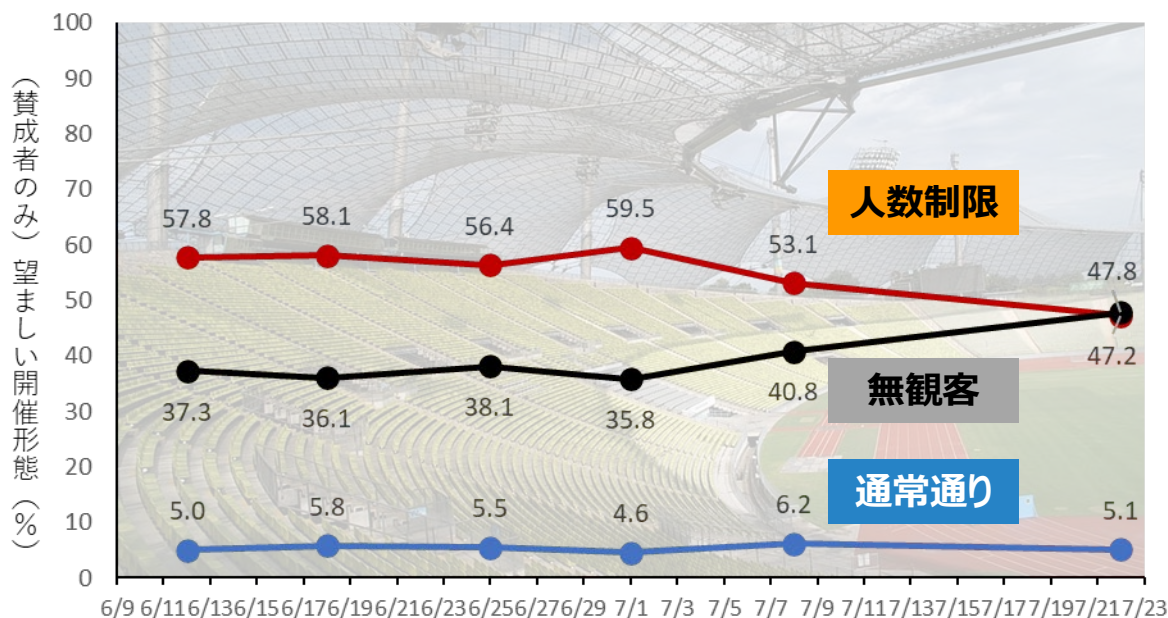


- クラウドソーシングサービスの登録者に協力を依頼
 - 第1波 1000名→第10波 789名→第11波 762名
 - 平均年齢 41.29 (SD 9.82) 歳, 女性 60.7%
 - 日本人という母集団に対する代表性はないが, 比較的誠実に回答する傾向がある
 - 「日本全体」の風潮を捉えるというのにはやや適切ではないが, 回答者個人内の変化は捉えられる
 - (やや我田引水めくが) 大規模イベントにアクティブに関わる可能性のある層は拾えている

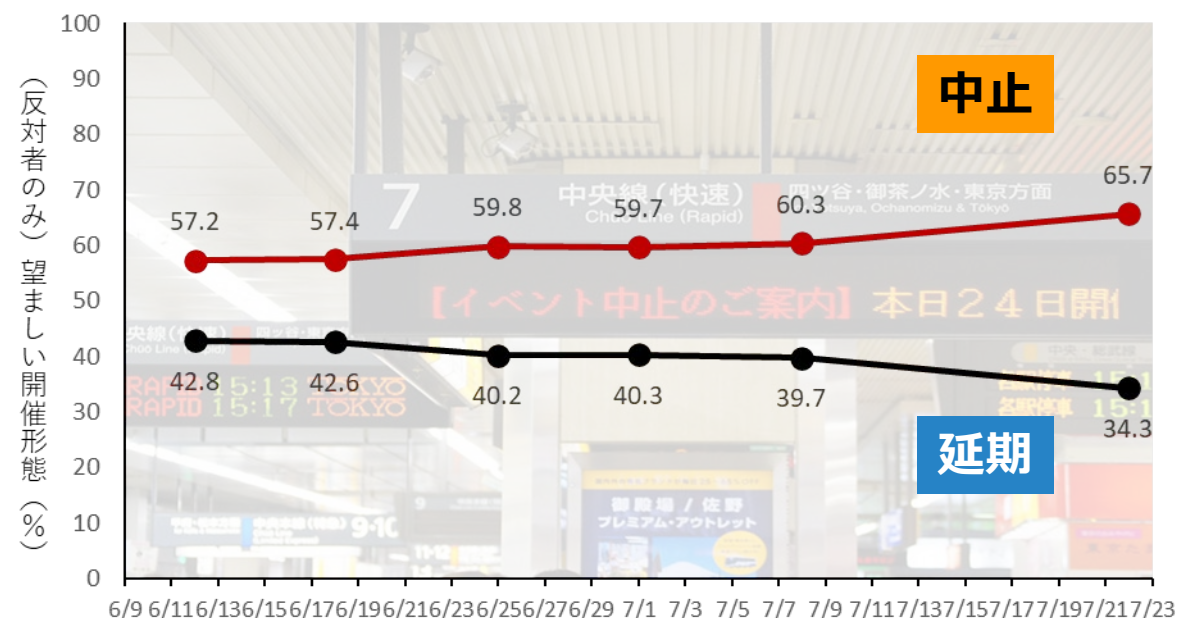
東京五輪開催に対する賛否（5月下旬～閉会直後）



望ましい開催形態（6月上旬～開催直前）



※7/9 無観客開催決定



賛成：「どうせなら（通常通りは無理でも）少くくはにぎやかに」

反対：「どうせなら（延期するくらいなら）やめてほしい」

一言で表現すると
「意見は二極化」

東京五輪開催に対する賛否（+ 10月下旬）

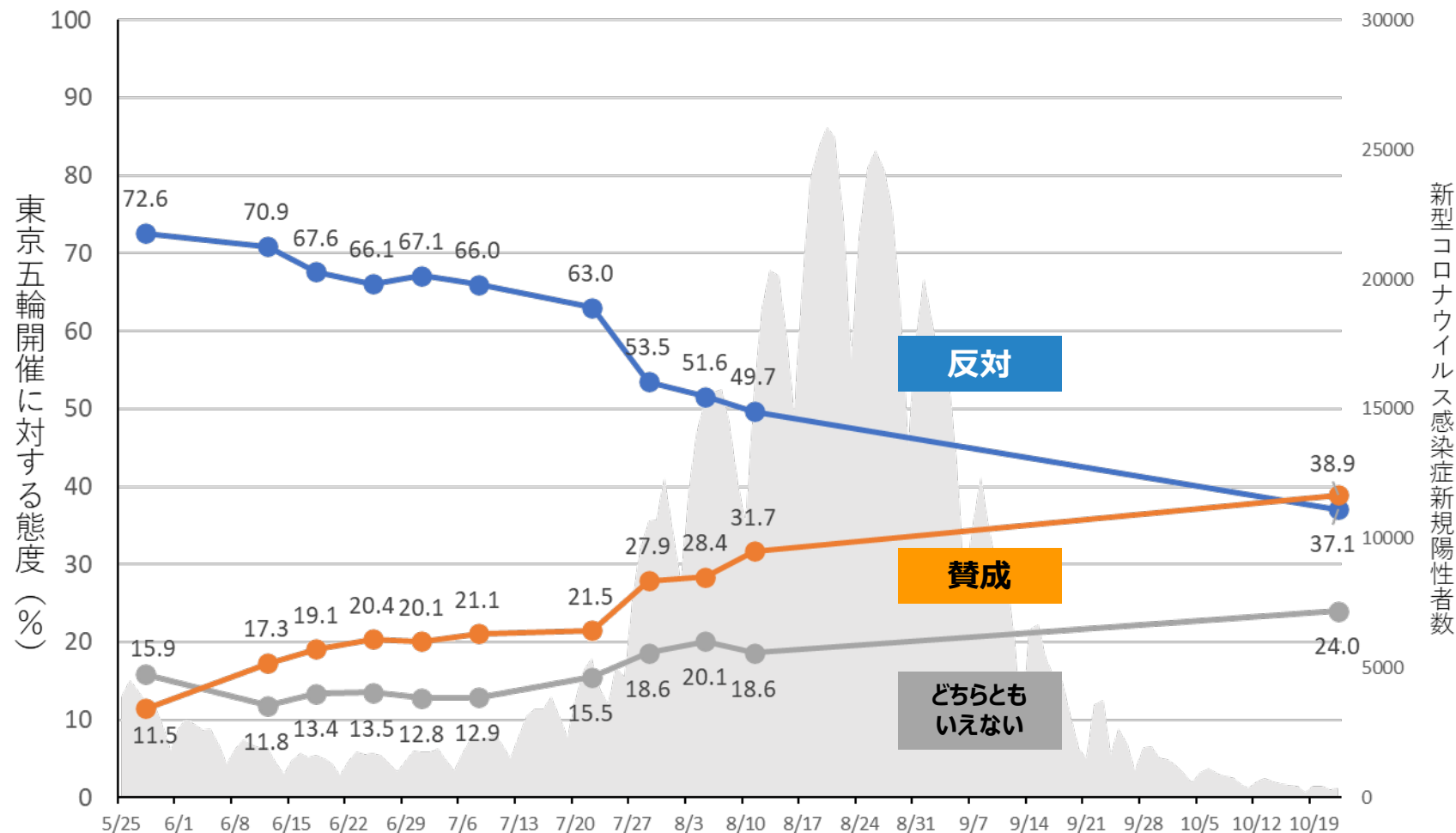


Rosy retrospection 認知バイアスの一種

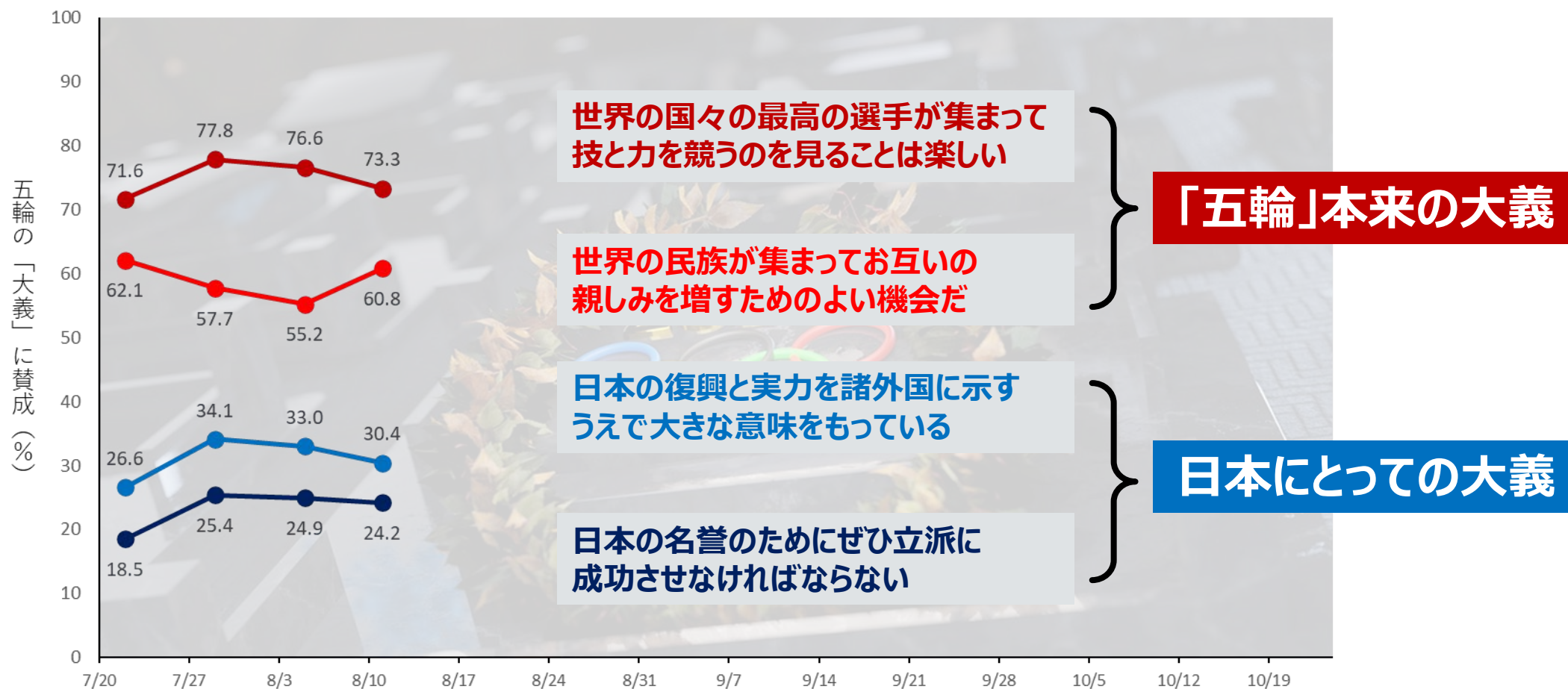
（実際にはそうであっても）
過去は現在よりも
良いものとして思い出されがち

+

感染第5波の収束
（不人気）政権交代による
ポジティブムード



五輪の「大義」をどう捉えるか（開催直前～閉会直後）



東京五輪1964調査（開催前 1964.6 実施）では…

「五輪」本来の大義

問34. オリンピックは、世界の民族が集まってお互いの親しみを増すためのよい機会である。

	東 京 N=1,131人	金 沢 N= 762人
1) 賛成	98.6%	95.7%
2) 反対	0.9	0.7
3) どちらともいえない・その他・無回答	0.5	3.7

問36. むずかしいことはぬきにして、世界の国々の最高の選手が集まって技と力を競うのをみることは楽しいことだ。

	東 京 N=1,131人	金 沢 N= 762人
1) 賛成	97.7%	95.7%
2) 反対	1.2	1.4
3) どちらともいえない・その他・無回答	1.1	2.9

日本にとっての大義

問35. こんどのオリンピックは、日本の復興と実力を、諸外国に示すうえで大きな意味をもつ。

	東 京 N=1,131人	金 沢 N= 762人
1) 賛成	91.9%	90.0%
2) 反対	5.6	3.4
3) どちらともいえない・その他・無回答	2.6	6.6

問49. 日本の名誉のために、今度のオリンピックはぜひ立派に成功させなければならない。

	東 京 N=1,131人	金 沢 N=762人
1) 賛 成	95.0%	94.9%
2) 反 対	3.5	2.6
3) どちらともいえない・その他・無回答	1.4	2.5

※今回調査は「賛成」「反対」「どちらともいえない」の3肢からの選択、この調査は「賛成」「反対」の2肢からの選択。

東京五輪1964調査（開催前 1964.6 実施）では…

「五輪」本来の大義

問34. オリンピックは、世界の民族が集まってお互いの親しみを増すためのよい機会である。

	東京 N=1,131人	金沢 N=762人
1) 賛成	98.6%	97.0%
2) 反対	1.4	3.0
3) どちらともいえない・その他・無回答	0.0	0.0

問36. むずかしいことはぬきにして、世界の国々の最高の選手が集まって力を競うのをみることは楽しいことだ。

	東京 N=1,131人	金沢 N=762人
1) 賛成	95.5%	95.7%
2) 反対	4.2	1.4
3) どちらともいえない・その他・無回答	1.1	2.9

日本にとっての大義

問35. このオリンピックは、日本の復興と実力を、諸外国に示すうえで大いなる機会である。

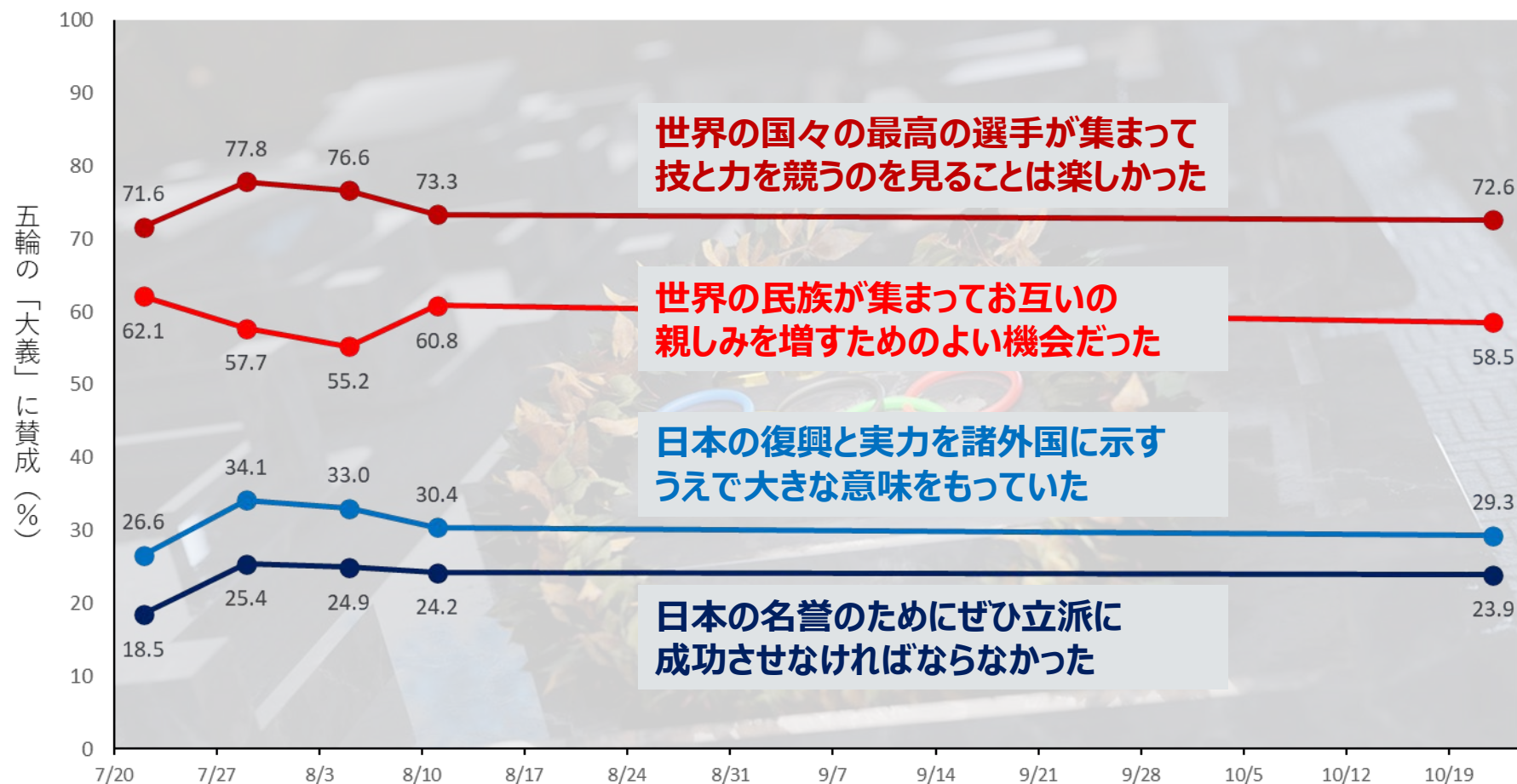
	東京 N=1,131人	金沢 N=762人
1) 賛成	91.9%	90.0%
2) 反対	5.6	3.4
3) どちらともいえない・その他・無回答	2.6	6.6

問49. 日本の名誉のために、今度のオリンピックはぜひ立派に成功させなければならない。

	東京 N=1,131人	金沢 N=762人
1) 賛成	95.0%	94.9%
2) 反対	3.5	2.6
3) どちらともいえない・その他・無回答	1.4	2.5

※今回調査は「賛成」「反対」「どちらともいえない」の3肢からの選択、この調査は「賛成」「反対」の2肢からの選択。

五輪の「大義」をどう捉えるか（+10月下旬）



賛否はどう動いたか

第1波（5月下旬） VS 第11波（10月下旬）

		第II回 10/20-22						
		非常に反対 60	かなり反対 92	やや反対 131	どちらでもない 183	やや賛成 150	かなり賛成 108	非常に賛成 38
第I回 5/25-28	非常に反対 253	58	56	48	57	20	10	4
	かなり反対 181	1	24	51	51	39	14	1
	やや反対 122	0	8	21	34	35	23	1
	どちらでもない 112	1	3	6	38	34	24	6
	やや賛成 53	0	1	2	3	19	21	7
	かなり賛成 26	0	0	3	0	3	14	6
	非常に賛成 15	0	0	0	0	0	2	13

賛否はどう動いたか

第1波（5月下旬） VS 第11波（10月下旬）

		第II回 10/20-22						
		非常に反対 60	かなり反対 92	やや反対 131	どちらでもない 183	やや賛成 150	かなり賛成 108	非常に賛成 38
第I回 5/25-28	非常に反対 253	変わらず反対 267			軟化 (中立→賛成, 反対→中立・賛成) 353			
	かなり反対 181							
	やや反対 122							
	どちらでもない 112	硬化 (賛成→中立・反対, 中立→反対) 19			変わらず中立 38			
	やや賛成 53							
	かなり賛成 26				変わらず賛成 85			
	非常に賛成 15							

第11波の回答傾向：軟化 VS 変わらず賛成/反対

賛否態度	「五輪」本来の大義		日本にとっての大義						
	世界最高の技と力を見るのは楽しい	世界の民族が親しみを増す機会だ	日本の復興と実力を世界に示せる	日本の名誉のために成功が必須	五輪は日本にとってプラス	感染拡大は五輪のせい	内閣支持	国際イベント開催賛成（感染禍）	国際イベント開催賛成（平時）
変わらず賛成	100.0	90.6	55.3	52.9	92.9	9.4	69.4	44.7	89.4
軟化	89.0	69.7	31.4	37.1	57.8	42.5	47.9	12.2	80.5
変わらず反対	45.3	35.2	12.0	6.0	6.7	83.9	28.5	0.8	52.1

まとめと展望



- **東京五輪開催に対する賛否**は、開催前はほとんど変化なく反対が多く、開催中に徐々に軟化し、閉会2ヶ月半後には賛否ほぼ同数に至った。
- **五輪開催への態度軟化と関連**するのは（1964年開催時はほとんどの回答者が賛成していた）日本にとっての五輪の「大義」よりも、**五輪としての「大義」**を感じたことだった。
- 五輪のような大規模イベント自体が忌避されているわけではないが、旧来の**日本にとっての大義**は既に（元来の開催賛成派ですらあまり）**認識されていない**。
- 過去の成功にとらわれない見地、具体的には、感染禍などリスク対処において国民生活を重視する（イベントを過度に優先させない）ことが重要ではないか。